

新潟県

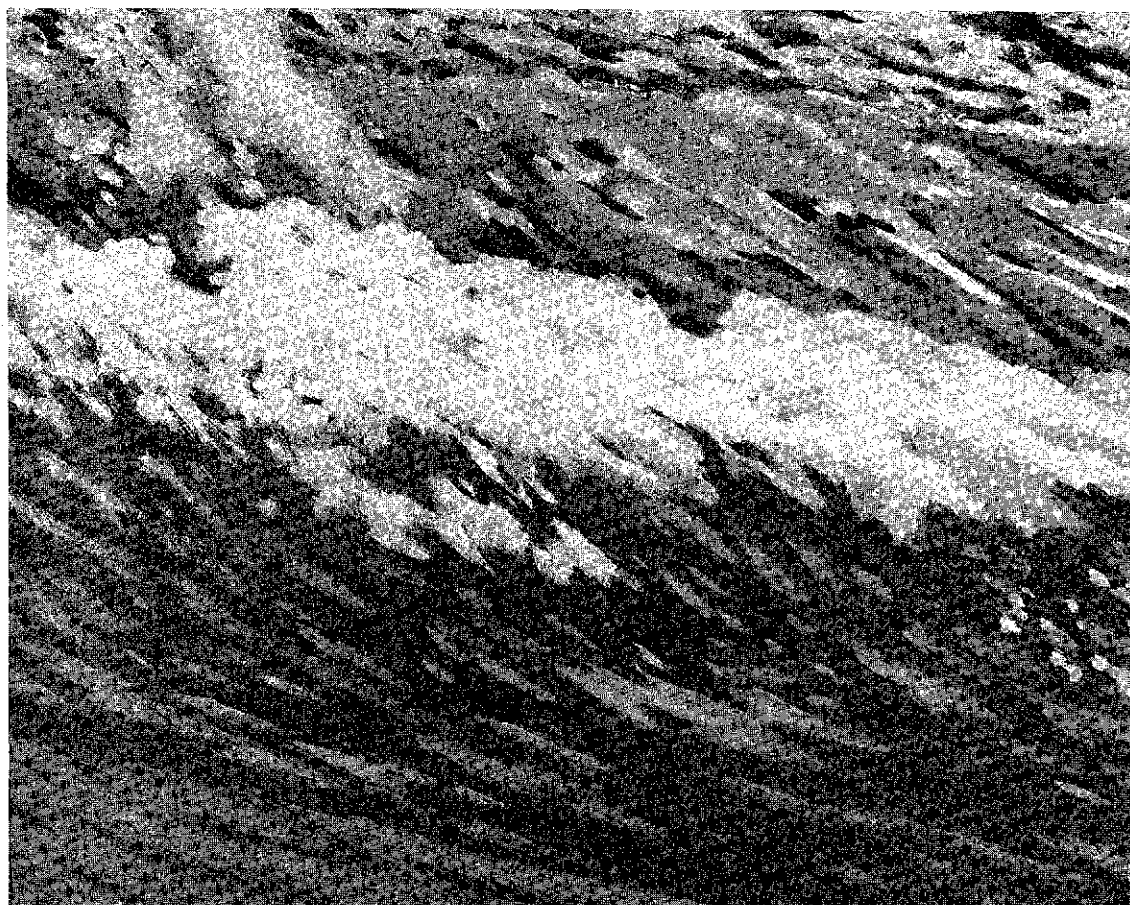
平成元年

# 公民館月報

1月

第431号

## 特集 国際化社会と公民館



三輪晁勢「滯」（とう）1964年  
絵本着色 130×161.5cm  
新潟県美術博物館蔵

三輪晁勢（みわ・ちようせい 1901～1983）三島郡与板町出身。生家は良寛と親交のあつた豪商。日本画家・堂本印象に学んで終生京都で制作を続け、日本画の持つ伝統的な装飾性と現代的な視点の融合による豊かな作品を多く生み出した。日本芸術院会員。

# 公民館こそ

## 生涯学習実践の拠点

### 第37回全国公民館振興大会開催

第37回全国公民館振興大会が十一月二十九日、東京の赤坂プリンスホテルで開かれた。全国から市町村長・教育長・公民館長等千数百名が参加し、大会セレモニー・優良職員・永年勤続職員表彰、大会宣言決議等を行い、盛会裡に終了した。

大会スローガンは、「公民館こそ生涯学習実践の拠点、施設の充実と事業の振興を」、「コミュニティづくりの中心センター、公民館の活性化を」、「公民館補助予算の単価アップと総額四八億九千六百万円の確保を」の三点におき、公民館振興国会議

員懇談会の面々から、祝辞や激励のあいさつがあった。表彰式では、39名の優良職員表彰、138名の永年勤続職員の表彰が行われた。本県からは、優良職員に反町次則氏(前長岡市中央公民館係長)永年勤続職員には相沢親司氏(柿崎町中央公

# 辛口

公民館に  
関わり初め  
て三十年に  
近い。私自  
身、ここで  
得たものは  
大変大きい  
と実感して  
いる。ただ、不思議に  
思うことが二つある。

一つは、時に講師であり、時に受講生であるという人が意外に少



「何ごとのおわしますかは  
しらねども」……では

### 船引静子

ていいものだろうか。社会の変動の日まぐるしい中で、利用者のニーズは何か、それは今の時代のどんな反映なのか、など。これら

自分が体験することで見えてくるものが大きい。いま、つは、これらを踏まえ、公運審の機能も自分から問われてくるものではあるまい

公運審と利用者を隔てる壁は厚く、疎通するパイプは細い。「人馬一体」という

が、ある場合には馬、ある場合には人となつてみて初めて呼吸も合わ

せられるというところで

企画が地域で生きた

(新潟市在住 主婦)

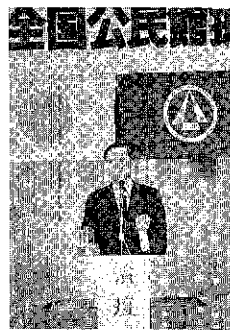
ないということだ。講師陣というものがリスアップされ、「これは別格のもの」とイメー

知ることのないままの

声が開ける。人は何に

不満を持っているか、

現況では、何ごとのおわしますかは知らねども」と利用者は無関心に近い、その存在すら知らない。公共の働きとしてそれはおかし



局長 齊藤

## 斎藤生涯学習局長祝辞 二つのテーマを示唆

民館長)中倉誠一氏(前中条町中央公民館長)江部忍氏(新潟市坂井輪地区公民館事業係長)の四氏が受賞に輝いた。

このあと、「改革の時代」と題する慶応大学教授加藤寛氏の記念講演があった。

新設された文部省生涯学習局長斎藤藤淳氏は、概略次の要旨の祝辞をされた。

生涯学習時代を迎え、公民館の新しい出番として、二つの大きなテーマがあるように思えます。

第一は、従来の社会教育の面でもお願いしたところですが、より一層幅の広い活動をお願いしたいということです。今まさに心の豊さを求める時代です。それだけに住民には多様なニーズが生じています。従来の伝統的な社会教育活動はもとより、新しいソフトのサービスが要求されています。単に教育委員会だけでなしに、市町村長部局、国の色んな機関とも連携をとって、さらには民間の文化活動な

どと幅広く連携を取りながらより、層の幅広い活動が求められています。これが重要な時代の転換であります。

第二は、このような幅広い連携をとるに当り、従来の社会教育の専門的な組織としての専門性の確立であります。これは、換言すれば公民館の主体性の問題であります。このように専門性と主体性を確立することが望まれる時代となっております。

以上の二つは、無理な注文をお願いしているようではあります。公民館の幅の広い活動と専門性とは、それによって公民館のステータスが上がることとなります。このような公民館になることは、単に生涯学習の役に立つだけでなしに、そのような公民館を持つ地域自体が発展し、また、地方公共団体の発展につながることにあります。そうなれば益々公民館への信頼も高まることとなります。従来にもましてより一層の公民館の整備にご協力ください。

# 特集 国際化社会と公民館

大和町公民館係長 井口 雄子氏  
 新潟市中央公民館運審委 氏 氏  
 柏崎市黒姫公民館長 氏 氏  
 県教育委員会社教主事 氏 氏  
 出席者(五十音順) 井小田 中 井口 雄子氏 氏 氏 氏  
 (聞き手) 上村 県公連事務局長

## はじめに

司会 いまや、新潟県において、公民館における国際化社会への対応は極めて重要な課題になってきました。そこで正月号の特集としてこの問題を取り上げることにしました。

それでは、早速始めさせていただきます。大和町は国際大学のある町として注目を集めている町ですが、公民館ではどんな対応をしているのですか。

井口 国際交流の事業だけ申しますと四つです。①町内国際リレーマラソン、これは、留学生8チームを含めた町内33チームによるもので国際色豊かな大会です。②ジュニア国際交歓会、これは町内6小学校の児童を対象に留学生が訪問するもの。③成人対象の英会話教室。④雪上交歓会



井口 雄子氏  
 大和町公民館係長

は、町民総出で留学生を交えてのスキー大会や餅つき、雪上レクリエーションなどで触れ合いを深めています。その他にも近隣の町村にも呼び掛ける事業とか、留学生講師による料理講習会など国際的な事業には事欠きません。

司会 有難うございました。黒姫公民館の場合は、柏崎市とは違って山間地ですから条件は違うと思いますが。



田辺 幸三氏  
 黒姫公民館係長

田辺 はい、大和町のように国際化の条件は恵まれていません。しかし、当地出身の人で国際的な舞台で活躍している人は多いのです。で、その人たちが古里がえりをすると、異口同音に指摘するのが語学力の不足についてです。

そこで、当公民館の国際化への対応の第一は世界共通語の英語教室の開設にあると思っております。ですから、「柏崎ではこうしています」と華々しいことは考えずに、地域の住民に「こういう時代が来たんですよ」ということを知ってもらうための啓発活動として実施しています。親と子の日常茶飯事の中で、テレビや雑誌などにでてる簡単な単語が分かるように、また、多世代家族の多いこの地方に、年寄りから孫たちまで会話をとおして国際化に役立ってくれればと願って語学教室をやっているわけです。

司会 県内の公民館(社会教育課の事業も含めて)での国際化に対応した事業への取り組みは

どんな様子ですか。中村 今年度、生涯学習基盤整備事業(県単、市町村助成)の一つに、国際交流活動促進事業があり、ここにおいての柏崎市・大和町さんの他に、新潟市・十日町市・中条町・小出町・安塚町・青海町の8市町で実施しています。内容としては、外国語学級講座の開設・国際交流イベントが主ですが、中条町のよう



中村 隆一氏  
 新潟県国際交流活動研究委員会委員長

に啓発情報紙を年四回発行しているところもあります。この他にも市町村が独自でやっている事業も多いようです。また、国の委嘱事業として、新潟県国際交流活動研究委員会があり、十一月十三日上越文化会館で、二十日には新潟市中央公民館で実施しました。

## 国際感覚・国際理解の実態は

司会 なるほど、随分多くの市町村が取り組むようになったんですね。ところで、いま、さかんに国際化といわれていますが、公民館でみる住民の国際感覚とか国際理解の実態はどうなんでしょうか。

小池 有ると思います。私は、高校生の交換留学生のお世話をしているのですが、日本の留学生希望生に受け入れ国の希望を聞きますと、欧米系白人のところを希望する割合が非常に高い。これは、その生徒個人だけでなく、学校も家庭もみな同じ反応です。「偏見」というと厳しいかも知れませんが、「個人の好みだから」と



小池 有る氏  
 新潟県国際交流活動研究委員会副委員長

から」と言っている。いらいな気がしません。これが新潟の国際感覚と言えましょう。

**田辺** 昭和50年代の頃のことですが、公民館で英語・ロシア語・中国語の三外国語の講座を同時に開設したところ、柏崎港にソ連の材木船が入っていた関係もあってロシア語の希望者が多かったことを思い出します。ところが、しばらくすると、公民館の思想はおかしいのじゃないかという風評が立つ始末です。

**井口** わたしのところでも、留学生との交歓会を開くときなどに、講師を誰にお願いするかは相談すると、アメリカ人を希望する任氏が圧倒的に多いのです。ところが、アメリカの留学生は、あまり日本語をしゃべれない。むしろ、東南アジアの留学生は英語とともに日本語もと

ても流暢なんです。この事例でもやはり、欧米志向が強いということが言えますね。ですから、私どもの公民館ではそれを承知で、いろいろな国の留学生と交流を深めるようにしています。それで、最近はまだ違和感を持たなくなりました。

**田辺** 今年のイベントとして、五人の若者を海外研修に出しました。若者達が帰国してから、地域に大きな波紋を投げ掛けることを狙ったのですが、果たせるかな若い親達の国際意識が目立って高まってきました。そんなことから、公民館が逆に語学

教室に力を入れるようにと尻を叩かれています。  
**井口** 国際大学当局では、「国際感覚を身につける」ことを教育



井 口 氏

日標の一つに掲げていますので、それを受けてわが公民館でも、相互の偏見を除去することに力を入れていくことが住民にも影響しつつあるものだと思います。

**田辺** そのことで私も思うのですが、日本のことが外国に聞

連って紹介されていることがかなりありますから、外国の人からも日本を正しく見てもらう必要がありそうです。ですから、公民館では、日本の良さ、地域の優れた文化などを正しく伝える事業にもっともっと取り組まなければなりません。それが相互理解であり、国際感覚の大切な部分だと思っています。

**中村** 国際交流の促進は県の重点施策であり、しかも、日本海時代を迎え、当県の国際化への対応が急務となっています。特に周辺のアジア諸国へ目を向ける必要がありますし、これからますます交流が盛んになると思

います。

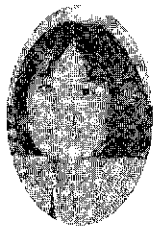
過日の研修会のおりに、外国人発表者の一人が「日本人はもう少し他国のことを理解してほしい。とくに国際化には言葉で表せないものがある」と言っていました。「国際化」という言葉を安易に使わないで、国の違いつまり習慣・文化・考え方を知るなど、地道で継続的な対応が必要のようです。

**小池** 先程の「好み」の問題に続くのですが、日本の将来を考えると、今以上に東南アジアとの関係が重要になってくるでしょう。ですから、「喜んで東南アジアへ行く子どもを育てておかないと大きなマイナスになる」と思います。親たちは、「どうせいくなら欧米へ」と、英語がうまくなるという日先のメリッ

トだけを追う、世界の情勢の見えない国際感覚での子育てです。

相互理解というのは同化する

ことではありません。お互いの違いを理解することです。自分の主張と相手の主張をとらえ、折衷案を見付け出すことでもあります。ですから、その意



小 池 氏

味では国際理解とか、国際交流には忍耐が必要です。

**井口** 魚沼人特有のものかもしれないませんが、穀が厚くて第三者を受け入れにくい。事例を挙げ

てみますと、正月の三日のホームステイで日本の(魚沼の)正月を味わいたいと留学生からの申し出があっても、受け入れ

てくれる家庭がなかなかできない。普段着の交流がなかなかできないようです。

**小池** 日本人の私だって農村の正月は体験してみたいわ。「これが大和町の暮らしの文化なんだ」と胸をはる機会になるのですね。

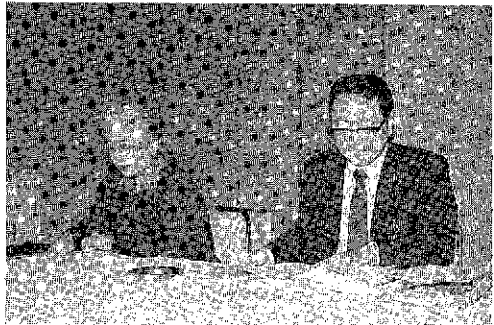
田辺 私には、太平洋側の生れのせいかな、なんでもオープンにさらけ出すのですが、新潟県の県民性は閉鎖性や排他性が強い。ホームステイを実施したくて、心当たりを説得するのですがなかなか理解が得られない。

**中村** 総理府広報室の資料(6110)によると、「国際化のために何をしたらよいか」では第一位は国際的に通用する識見や能力を持つ。第二位は、海外での国際的行事に参加したり、見学をして外国とのふれあいを増やす。第三位は、来日・滞在する外国人との交流を図る。第四位、外国人と交流できるように外国語を身につけること、と

なっています。

そこで、広く県民を対象に、国際理解、国際交流の意識を啓発するとともに、民間の国際交流団体との連携を密にし、市町村の指導者養成のために、国際交流活動研修会を実施しています。

**国際交流のイベントは**  
**司会** 話題を国際交流に移しますが、国際交流のイベントが盛んですが、どうも一発火的に底が浅いとか、思い付きの要素が



多いなど、何か物足りなさを感  
じるのですが。

田辺 おっしゃることはよく分  
かります。でも、公民館として  
は、魅力のある楽しい事業にし  
ないと住民が来なくなりませ  
す。だから、楽しいイベントにし  
ます。しかし、その中に外国を正  
しく理解する幾つかの点を忘れ  
ずに、ちゃんと押さえておく、  
その配慮が大切です。

井口 国際化への対応の根本  
は、心と心の結びつきですね。  
そこへ持っていくための語学や  
会話の教室・講座であり、触れ  
あいのイベントだと私もは理  
解しています。

そこで、単なるイベントのた  
めのイベントにしないように、  
各種の機関や団体・サークルと  
連携を深めることや、各世代ご  
とに活動できるような対応のカ  
リキュラムづくりに取り組んで  
います。

小池 イベント中心の事業は、  
「楽しい楽しい国際交流」とい  
うイメージになりがちです。国  
際化社会に生きるということ  
は、人種の違い、宗教の違い、  
言葉の違いを超えて「みんな同  
じ人間なんだわ」という感動の  
側面を体験する、そして、利害  
や対立がおきても、それを乗り  
越えるエネルギーに転換出来る  
ようにすることです。現実の厳

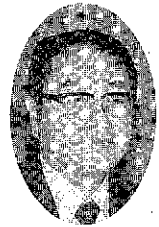
しい対立をほうって置けない、  
自分の身近な問題として、なん  
とかしなければというのが国際  
社会です。問題が起らない楽  
しい部分だけ盛り上げて表面  
的で深まらないわけです。

例えば、楽しいイベントで表  
面的な理解ができたなら、今度は  
留学生のホームステイを引き受  
けてみるなどはいかがですか。  
大学の留学生の場合は大学のあ  
る都市でないためでしょう

が、高校生なら高校のあるまち  
なら可能ですし、小中学生(の  
場合は短期間になる)なら県内  
のどこの町村でもできます。  
司会 なるほど、それならど  
この町村でもできる。そのお膳  
立て(違いを理解するための学  
習)をするのが公民館というこ  
とになる。また、ホームステイ  
に関する情報提供の事業も考え  
なければならなりませんね。

終わりに

司会 いろいろありがとうござ  
いました。最後に公民館の対応  
についての締め括りを言はずつ  
お願いします。



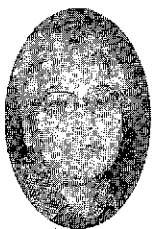
中村氏



中村 最初にやることは条件整  
備です。地域の実態をよく把握  
し、それに基づいて予算、指導  
者養成、ボランティア活動等を  
考える。二番目に、外国人が公  
民館を気軽に利用できるように  
情報・資料コーナーを設けて受  
け入れ側の環境整備を図る。三  
番目として、市町村の地区公民  
館が相互に連携し、役割分担を  
しながら特色ある事業を工夫し  
たらどうか。また、他市町村と  
協力して広域講座を実施するこ  
とも考えられます。

井口 生涯学習の一貫として国  
際化社会への対応を捉えなければ  
ならないと思います。先ほど  
申しましたように、各種の機  
関・団体・サークル等の連携を  
深めることや、各世代毎に活動

できるような、対応のカリキュ  
ラムづくりに取り組んでいま  
す。そして、公民館の押付けで  
ない、楽しい事業に参加してい  
るうちに気が付いてみたら国際  
理解の基本を体得していた、と  
いう事業を創りだしたいと想を  
練っています。それはまた、地  
域の活性化に役立つ(国際大学  
のある町としての特色を発揮し  
た)ものにもなるはずで、そ  
の方向は、「情報の収集」で、公  
民館の情報を活用して、住民が  
留学生と自主交流を深める町に  
して行きたいと考えています。



田辺氏

田辺 私も公民館が取り上げる  
国際化への対応は、生涯学習の  
範疇だと考えています。子供達  
には二十一世紀を志向した国際  
感覚を育てるために、また、そ  
の親たちには、自分の古里の文  
化や暮らしを誇れるものとして

自信を持って外国に紹介できる  
ように、年配の人たちには、現  
代に生きる楽しさを味わうこと  
ができるように、つまり、本来  
の公民館の活動のなかに、地道  
な活動として国際感覚や国際理  
解の息吹を入れていこうと思っ  
ています。

小池 最近国際化ということが  
注目され、「国際化」をテーマに  
した事業が盛んです。結構なこ  
とですが、危険なのは、国際化  
する人だけの国際化に終わって  
いる傾向があることです。あま  
り身構えないこと。生活のあら  
ゆる場面に国際化の問題がある  
わけですから。視点さえはつき  
りしていれば外国人をよばなく  
とも国際化に対応した学習はで  
きます。

司会 公民館がオープンな学習を展  
開する。その情報が、その地域  
に住む外国人にも届く、すると、  
外人たちも興味のある学習に参  
加する。そんなふうな公民館に  
なりたいたいものですね。

司会 ありがとうございました  
。国際化に対応した公民館の  
ありかたは、外国人を招いての  
単なるイベントの実施や会話教  
室だけでいいのか、という司会  
者の疑問をよく説明していただ  
きました。国際理解というのは、  
違いを知り違いを認めあつたう  
えで、相互の利害を乗り越える  
ことだということ。そして、そ  
のエネルギーになるための国際  
交流でなければならぬこと。  
また、継続的で、地道な活動で  
ありたい。などなど、これから  
の公民館の、国際化への対応に  
ついて、たくさんの方の貴重な提言  
ありがとうございました。

# 小出町中央公民館

## 実践記録シリーズ

(28)

### 国際理解への第一歩 婦人学級生国際大学を訪問

小出町は、越後三山を東にのぞみ、魚野川をはじめとする清流にめぐまれた人口一万三千人の山紫水明の町です。

公民館は、中央館一館と地区館二館からなり、それぞれ少ない職員数の中で各種の事業を実施しています。

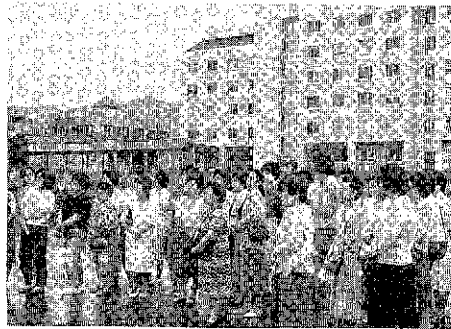
さて、当町の婦人学級は、昭和44年度に開設して以来、20年が過ぎようとしています。学級の開設は、年度当初に各地域を単位として募集を行い、各地区それぞれのプログラムにより、婦人としての知識と教養を身につけ、豊かな生活を築くべく、主体的に取り組んでもらう方式を取っています。今年度は十一学級開設されています。

学習内容は、健康づくりから消費生活問題に至るまでバラエティに富んでいます。どうしても現代の風潮を反映して、趣味的な軽いものになってしまいがちです。

それらを少しでも打開しようと、昨年度から各学級生が一堂に会しての合同学習会を開催しました。昨年のテーマは、まず身近な問題からということで、「家族関係」を取り上げ、夏と冬の二回、講師を迎えて高齢化社会、嫁と姑、社会福祉の問題点等について、学習を深めました。

そして、今年度の合同学習のテーマは、県の補助事業との関連もあり、「国際理解」といたしました。まずは、隣の大和町にある国際大学の視察が手っ取り早いとのこと、早速実施しました。

時は六月二十四日、午後一時半。八学級四十三名の参加を得て、マイクロバスで出発。八色原の中に立つ国際大学は、すぐ近くにありながら、一般の人にはなかなか行く機会がないのが現状です。まずは、総務課の大塚さんより全体の概要説明がありました。そして、お次は施設見学。本部棟や学生寮を見て回



大学のキャンパス見学

りましたが、掲示板の伝言等がすべて英語であるため、ちょっと異次元の世界に迷い込んだと

いう感じでした。ですが、学級生も始めはぎこちなかったものの次第に雰囲気慣れ、出会う学生と「ハロー」のあいさつも自然に出るようになりました。

施設見学後は、学生との意見交換です。体育館において、イラクのリナ・アルカリキさん(二十三歳)とタイのラビーパーン・プロムスリさん(二十八歳)

のお二人と、「各国の女性の暮らしぶり」をテーマとして、質疑応答の形式で行いました。

さまざまな話が出ましたが、イラクのアルカリキさんには、「イラン・イラク戦争についてどう思うか、との質問が出て、「罪もない人が多数死傷しているの、胸が痛む。何としても早く終わらせなければ。」との答えに、日頃、テレビや新聞でしか目にしないイラン・イラク戦争のことが、他人事とは思えないと、同感じられたようでした。

また、アルカリキさんはイラク人ですが、中近東の人の顔を見るのも珍しいため、「お人形さんみたいだね。」との声も耳にしました。

また、タイのプロムスリさんに対しては、以前タイに旅行したことがある学級生から、「貧民街が観光コースの中に組み入れられており、それを目にしてあまりの貧富の差にびっくりした。」という質問が出され、「開発途上国なので、同じアジアの国として日本の援助を大いに受けながら、みんなの住み良い豊かな国にしたい。」という答えに、経済大国日本のこれから取るべき姿勢について、あらためて考えさせられたようでした。

機会に、ということでも国際大学をあとにしました。

今回の視察で、身近にありながら遠い存在であった国際大学との垣根がなくなり理解が深められたこと、学生との交流により国際化ということが言葉だけでなく現実のものである、ということや学級生自身が身を持って体験したことなどが大きな成果だったと言えます。

真の国際理解とは、他の国の人痛みが自分の痛みとして感じられる感性を持つことだ、と言われています。その意味でも、今回の国際大学視察は、その第一歩として大きな意義がありました。今後は大学祭に参加したり、学生を招いてお国自慢の料理教室を開いたりできれば、と考えています。また、ボランティア家庭として、今後、休日における学生の受け入れなどを率先して婦人学級生が行ってゆくならば、町民レベルでの国際交流も更に発展することでしょう。

異文化と接すること、カルチャーショックを受けること。これらのことが、今後の婦人学級生の学習を深めるきっかけとなれば幸いなことであり、今後大いに推進してゆく所存です。

(小出町中央公民館 主事 八海 昭夫記)

# 村上市岩船郡公連役職員研修会 地域に根ざした公民館活動

## 山北町町民会館を会場に

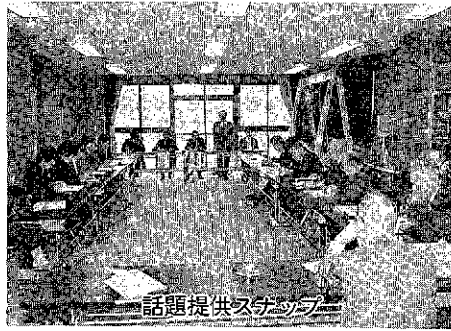
去る十一月十四日、村上市岩船郡公民館連絡協議会では、恒例の公民館役職員研修会を、山北町公民館の主管で開催した。

山北町町民会館を会場に、同郡市内の関係役職員七十名が参加し、「生涯学習推進の立場から、公民館活動が地域でどのような役割を果たすか」をテーマに、三分科会に分かれての研究協議がなされた。

- 第一分科会発表者  
大島彦左エ門(関川村運審委)  
貝沼一博(朝日村教委主任)
- 第二分科会発表者  
桜井昭一(神林村運審委)  
百武勇一(村上市教委主事)
- 第三分科会発表者  
高橋俊彦(荒川町社教委)  
菅原 寿(山北町社教委)

以上の諸氏によって発表(話題提供)され、それをもとに研究討議がなされた。分科会とはいうものの、分科会の方がふさわしい研究内容であった。

以下、たまたま編集者が飛び込んだ分科会の話題提供の内容を紹介する。



一、神林村の生活・地域課題  
発表者の桜井正一氏は古くからの公民館人らしい語り口で概要次のような話題を提供していた。

神林村は隣接市町村のような

いる。この点について公民館では次のように把握して対応を進めている。  
1、今こそ村づくりの目標に役立てて、生涯学習の重要性が増している。その必要性を住民に理解してもらう必要がある。  
2、部落集会所等での活動は活発であるが、多くは、趣味・娯楽のための同好グループで閉鎖性が強い。  
以上の二つから地域づくりのための学習活動への啓発活動が公民館の課題だと指摘していた。

二、古里瀬波の写真集づくり  
発表者の百武勇一氏は村上市瀬波地区公民館の若さあふれる主事。

公民館主催の文化祭に、瀬波の昔の写真を展示したところ、予想以上の住民の関心を引いたのをヒントに、地域づくりの一助にと写真集づくりに取り組んだものだと言った。  
なつかしい昔の写真集↓文科の伝承↓今日の生活課題の発見↓ふるさと瀬波の再構築(地域づくり)↓郷土愛へ  
公民館に集まらない人にとっても、この写真集をおして住民の心を結び、地域を結ぶ絆になつてほしいというのが百武氏の願いであり、その手応えを感じてもいるという。

### 村上市岩船地区公民館主事

小田 正浩氏(28歳)

県公連主催の本年度公民館職員研修を受講していた一人。研修会場で落ちつかない雰囲気の中でインタビュー。

公民館職員となつて、まだ九か月。その上最初からの地区館勤務のため、とまどうことはかからの連続だつたとおっしゃる。だから、この研修会が大変役立つので思いつきで帰りたいと張り切っていた。



とりのわけ、同じ

じ受講者との話しあいの中から、他の市町村のことが分かり、同じ悩みを持っていることも分り、研修参加の意義があつたと満足そう。

その彼に、受講途中に「第一子出生」の吉報が舞いこんできた。当人の喜びはむろんのこと、受講者全員が心からの祝福をしたことは申すまでもない。夜の情報交換会は彼のためにあつたように華やいた。

当の彼は第二回目の研修を落ちついて最後まで受講していたことを書き加えておく。  
(上村記)

### 素顔 拝見

#### 糸魚川市根知公民館副主事

小田島みわ子さん(39歳)

根知公民館の副主事として、今年で二年目の彼女は、地区の人気物です。根知で生まれ育つた彼女の、地区に対する愛着はひとしお。そして、何事にもくじけずにやりぬく根気強さと、責任感の定評があり、地区の人々の大きな信頼を得ています。又、スポーツ万能の彼女の、最も得意とするところは、各団体スポーツ活動の育成です。

小学生女子のソフトボール指導を行い、ママさんバレーの一員として、積極的に活躍する傍ら定期的に、体力作り教室を開催して地区のスポーツ振興にも、大いに貢献しています。



又、地区青年団のOBでもある彼女は、青年団員の良い話し相手でもあります。やはり、今一番の問題は、地域振興と若者達の定住、結婚問題ということですね。主婦と公民館副主事の仕事を上手に使いこなして、これからがんばってください。  
(小滝公民館副主事 伊藤ひろみ記)



# 特定業者から借用していいか？ パソコン機器と講師

## お尋ね

当公民館でもパソコン技術の習得を目的に、「パソコン入門講座」の開設を予定しております。

① 機器借用に問題はありませんか。  
② 指導者(講師)を業者に依頼することは問題ありませんか。  
③ この種の講座の開設にあたり注意しなければならぬことを教えてください。

(新潟市東地区公民館 小川 昇)

## お答え

お尋ねの三項目は、質問の趣旨から別個に判断するものではないと考えられますので、まとめて説明をしたいと思います。このことについて、「改正社会教育法解説(昭和三四年 宮地

茂著)では、社会教育法第二十三条第一項第一号で規定する「営利」とは、収益をあげることそのものではなく、特定人の収益に帰属することを言う。したがって営利事業とは特定人の財産上の利益の獲得のみを専ら追求する事業をいうと解せられる。としています。

また、「社会教育法解説(昭和五一年 福原匡彦著)」では、公民館は公共施設であるので、専ら営利を目的にする事業を行うことができないのは当然であるが、収益をあげる事業をすべて禁止しているわけではない。また、営利事業の援助についても利用者の便宜のために食堂、喫茶室等を設けたり、展示会での即売を認めたりすることは、特定の個人に片寄らず、適正な契約による限り差支えないと解される。としています。

最近、公民館を「地域の生涯学習拠点の一つ」との観点から公民館の運営方針については、当該市町村の公民館運営方針を尊重する立場であります。

で、前記の法の趣旨と通知の意図をふまえて、それぞれの実情に応じた対応をされるようお願いいたします。

(県社会教育主事 渋谷 孜記)

## あとがき

◇平成元年の静かな幕開け。今日(一月九日月曜日)春の陽を思わせる快晴の中での「仕事はじめ」。公民館界の気分一新の年になるように祈る。

◇この日川端町の事務局に石井耕一氏(全公連副会長)の年始訪問を受ける。暫時、全公連、県公連の諸課題について語りあう。

◇公民館に理解のある新文部大臣を迎えての平成元年。公民館界にとって格別意義ある年にしたいもの。全公連の時宜を得た活動を望むや切。(上村記)

## 新潟県公民館連合会 創立40周年記念論文募集

本県公民館連合会創立40周年にあたり、原点を確かめ、21世紀にむけて公民館の価値をより高めるため、公民館の充実発展に関する実践的提言を求めます。奮って応募してください。

### 応募規定

#### 1 内容

生涯学習社会の形成・推進に対応する公民館の在り方として、体制の整備、学習プログラムの開発、地域づくりへの対応等公民館運営の全体、または一部についての具体的な内容とする。

#### 2 応募資格

○公民館長・職員、社会教育課・係職員で公民館運営に関係ある者。(昭和63. 4. 1以降に勤務したことのある者)専任・兼任・非常勤・嘱託等すべて差し支えない。  
○個人、共同のいずれの応募も可。

#### 3 原稿枚数

400字詰め原稿用紙10枚以内、但し図・表等資料は別添とする。別に氏名(共同の場合は代表者名)、年齢、住所、所属を明記した表紙を添付すること。

#### 4 締め切り

平成元年10月31日

#### 5 表彰

最優秀1名 優秀2名 佳作若干名。平成2年度に開催される第41回県公民館大会で副賞をそえて表彰の予定。

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下 清一

編集人 事務局長 上村 捨二郎  
【定価1部120円 年共1,440円】